

子宮頸がんワクチンを接種しましょう。

子宮がんの中で、頸部にできるがんはウイルスによって起こる病気であることが分かっています。その大部分は、ウイルス感染を予防するワクチンによって防ぐことができます。

このワクチンは、定期接種（国が必要と認め無料で接種できるワクチン）ですが、過去にけいれんや体の痛みが出る副作用が報道されたので、現在は自治体からの接種勧奨の連絡がされていません。しかし、副反応であると報道されたほとんどの例でワクチンとの因果関係はないと考えられています。また、世界的にも安全性は確認されています。一部の国では男児への接種も始まっています。

非常に重要なワクチンであるにも関わらず、上記の情報が行き渡らないために、接種されるお子さんは少ないのが現状です。

子宮頸がんは、現在、女性の74人に1人が発症し、340人に1人が死亡しています。特に若い女性での発症が多いのが特徴です。下の図は若年で発症するがんを年齢別に示したものです。子宮頸がんは20歳～29歳で5位、30歳～39歳で2番目に多く発症するがんとなっています。がんを発症するウイルスはどんどんうつっていくので、ワクチンの接種率がこのままだと、今後は子宮頸がんを発症する率がより高くなっていくのは確実だと考えられています。

当院ではお子さんの将来のために、子宮頸がんワクチンの接種を強くお勧めしています。小学校6年生から高校1年生までの女兒が接種対象になります。

※対象年齢を過ぎると任意接種（総額5万円程度）です。

小児・AYA世代に多いがん					
	1位	2位	3位	4位	5位
0～14歳 (小児)	白血病 (38%)	脳腫瘍 (16%)	リンパ腫 (9%)	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (8%)	神経芽腫 (7%)
15～19歳	白血病 (24%)	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (17%)	リンパ腫 (13%)	脳腫瘍 (10%)	骨腫瘍 (9%)
20～29歳	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (16%)	甲状腺がん (12%)	白血病 (11%)	リンパ腫 (10%)	子宮頸がん (9%)
30～39歳	女性乳がん (22%)	子宮頸がん (13%)	胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (8%)	甲状腺がん (8%)	大腸がん (8%)

※国立がん研究センターの資料より作成。カッコ内は年代ごとの全がんに占める割合

図は2018年5月29日 毎日新聞より
※AYA世代とは若年成人のことです。

子宮頸がんは思春期に入った女兒では、
目前にある危機なのです。ぜひ接種してあげて下さい。